

令和2年度後期学校評価分析

京都市立開晴小中学校

2学期末に学校評価アンケートをお願いしたところ、707枚の回答を頂戴いたしました。遅くなりましたが、その結果をご報告いたします。前年同時期の評価結果と大きな差異はみられないものの、特に気になる点に絞っての調査でしたので、コロナ禍の状況にも関わらず、大きな減少がなく何よりです。

児童生徒全体			実現度	I	II III	前年比
確かな学力	1	めあてをもって学習したり生活したりしている	5.3	5.5	5.1	0.3
	2	授業中、先生や友だちの話をよく聞いている	5.8	6.1	5.5	
	3	朝読書以外で1週間にどれくらい本を読んでいますか	別掲			
	4	家では毎日、どのくらいの時間、勉強をしていますか				
	5	おたより帳やスケジュール帳を使って、次の日の学習の用意をしている	5.9	6.0	5.7	0.1
豊かな心	6	苦手なことでも、挑戦しようとしている	5.3	5.8	4.9	0.1
	7	自分のよいところが言える	4.7	5.3	4.3	
	8	人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない	5.6	5.8	5.5	0.1
	9	自分からすすんであいさつをしている	5.5	5.7	5.3	
	10	すみずみまで、きれいにそうじをしている	5.7	6.2	5.2	
健やかな体	11	ルールを守り安全に注意して登下校している	6.0	6.1	6.0	
	12	学校のきまりを守っている	5.7	5.7	5.7	0.1
	13	早寝・早起き・朝ごはんに気を付けて生活をしている	5.1	5.3	4.9	
	14	残さず給食を食べている	6.3	6.3	6.2	0.2
	15	外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	5.6	6.1	5.1	0.1

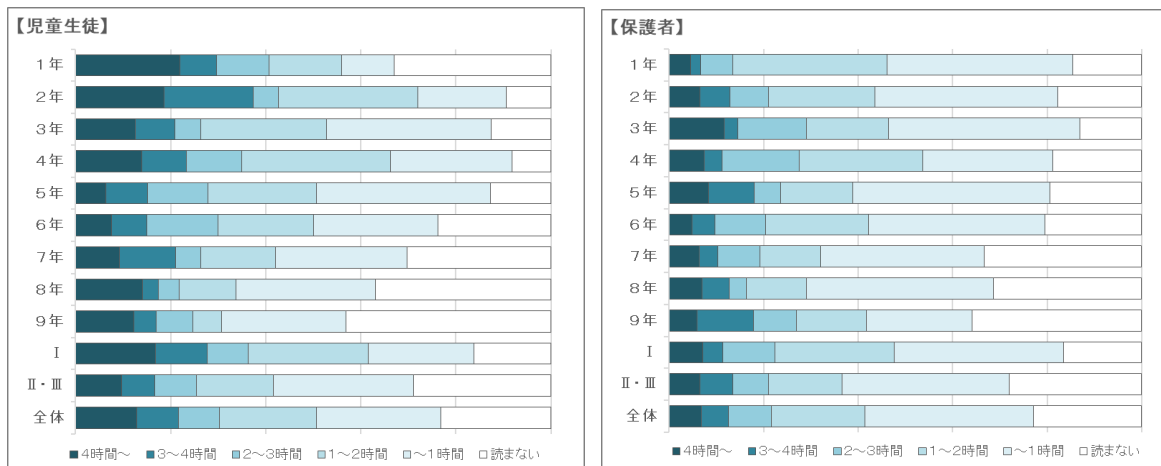
保護者全体			実現度	I	II III	前年比
確かな学力	1	子どもは目標をもって学習したり生活したりしている	4.7	4.8	4.6	
	2	子どもは、落ち着いた態度で学習している	4.7	4.7	4.7	0.1
	3	家庭でお子たちは1週間にどれぐらい本を読んでいますか	別掲			
	4	子どもは、毎日、どのぐらいの時間、家で勉強をしていますか				
	5	子どもは、おたより帳やスケジュール帳を使って、忘れ物がないようにしている	4.9	4.9	5.0	0.1
豊かな心	6	子どもは、少し難しいことに挑戦しようとしている	4.5	4.5	4.4	0.1
	7	子どもは、自分のよいところを知っている	4.9	5.0	4.9	0.1
	8	子どもは、相手を思いやり仲良くしている	5.5	5.5	5.5	0.1
	9	子どもは、しっかりとしたあいさつをしている	5.0	5.0	5.0	0.1
	10	子どもは、進んで手伝いをしている	4.1	4.4	3.9	
健やかな体	11	子どもは、安全に注意して登下校している	5.4	5.4	5.4	
	12	子どもは、学校のきまりやルールを守っている	5.6	5.7	5.5	0.1
	13	子どもは、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん等）が身に付いている	5.0	5.4	4.7	0.6
	14	子どもは、好き嫌いせず感謝して食事をしている	4.9	4.8	5.0	
	15	子どもは、外遊び・スポーツなどで、よく体を動かしている	4.8	5.1	4.6	0.1

教職員			実現度	前年比
確かな学力	1	子どもが目標をもって学習したり生活したりするよう支援・指導している	5.6	0.2
	2	子どもたちに話を聞くことの大切さや聞き方を具体的指導している	5.7	0.3
	3	進んで読書をするような働きかけをしている	5.2	
	4	めあてをもった家庭学習課題を明示し、学習できるように点検している	5.2	
	5	おたより帳やスケジュール帳を使って、自分で見通しを持ち、行動できるように指導している	5.4	0.2
豊かな心	6	何事にも挑戦しようとする態度を養っている	5.3	0.5
	7	子どものよさを積極的に見つけ、認めてほめている	6.0	0.1
	8	人権を基盤とした人間関係を築こうとする心情を育てている	5.8	0.1
	9	気持ちよく挨拶をしようとする態度が養えている	5.1	0.3
	10	勤労意欲を持たせるよう努力している	5.1	
健やかな体	11	子どもの安全な登下校のために指導と見守りを行っている。	4.7	
	12	子どもに規範意識が育つようにルール of 徹底指導をしている	5.5	0.1
	13	基本的な生活習慣を意識できるように指導している	5.6	0.1
	14	感謝して給食を食べようとする態度を育てている	5.6	0.2
	15	外遊び・スポーツなどで体を動かすように働きかけている	4.7	0.6

前年比 青字はプラス, 赤字はマイナス

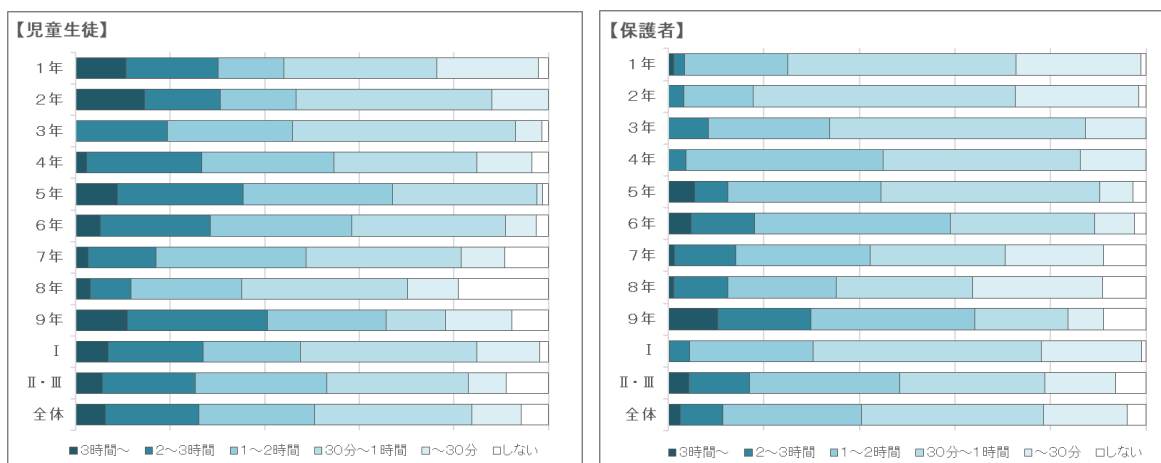
この結果については学校運営協議会理事の皆様にも供覧し、ご意見をいただいたうえで、本年度の調査結果として報告いたします。実現度5.0を下回っている項目については、優先的に取組を進めてまいります。ご家庭におかれましてもご指導いただくとともに、子どもたちに役割を与えていただき、自己有用感を味わえるような機会をお持たせくださいますよう、お願いいたします。

【1週間にどれくらい本を読んでいますか】



学年が進行するにつれて家庭での読書時間が短くなるという傾向は変わらないものの、昨年度に比べて「全く読まない」数がわずかながらも減っている。今年度は図書の貸し出しに制限があることを考えると、良い傾向にあると考えられる。朝読書の時間は定着してきているが、読まなければならない次元から、文章を読んで本の世界に入る楽しさを感じさせる、読書の質を高めさせることが教職員の課題である。活字離れが言われて久しいが、まとまった文章を苦も無く読める力は、今後も大切で、また、義務教育の間に培わなければ、その後に身に着けることは難しい。直接教科の成績等に結び付くものではないだけに、保護者の協力も得にくいところであるが、ぜひ子どもの読書の実態に目を向けていただきたいところである。

【毎日、どのぐらいの時間、家で勉強をしていますか】



昨年度に比べ、全体的に「全くしない」数が減ってきている。保護者の回答から見ると、児童生徒の申告には上乗せがあるようだが、家庭学習の習慣が定着してきているように思われる。一般に、7年になると部活で忙しくなり、家庭学習の時間が急に減るが、ジュルーチョの活用で改善の兆しがうかがえる。ただ、8年生は昨年も「全くしない」数が2割近くあり、最終学年を控えて学習時間が落ち込んでいることが気にかかる。